

## 大型冷凍庫リニューアル ～「大整理」から得た指針とは？～

ひろたに ひろこ  
 広谷 浩子(学芸員)

### 標本をつくり続けるために

当館の大型冷凍庫は広さ1.2坪ほどのプレハブ型冷凍庫で、-20℃以下に保たれた庫内には、魚類、無脊椎動物から、菌類、哺乳類まで、さまざまな標本資料が入っています。開館から20年以上も使い込んだ冷凍庫は、近年不調になることが多かったのですが、昨年夏には、完全に運転停止状態となりました。いったん解凍されると、色・筋肉の形・DNAなどの分子データなどが採取できなくなります。庫内温度をなんとか零下に保ちながら部品を交換して急場をしのぎました。しかし、このままだと、いつ運転停止になるかわかりません。この窮状について博物館から強く訴えた結果、修理することが決まりました。

### 検体の選別を始める

修理のためには、冷凍庫の中の検体をすべて出さなければなりません。魚類、無脊椎動物、菌類の移動先をそれぞれの担当学芸員に確保していただいた後に、哺乳類・鳥類・両生爬虫類の引っ越しを始めました。修理期間中、2トンの保冷車を借りて動かすことになりましたが、庫内の容積は最大でも8.8 m<sup>3</sup>。冷凍庫の天井までうず高く積みあがっている冷凍物が全部入らないことは明白でした。冷凍庫全体の4割以上を占めている哺乳類分野が先行して検体の取捨選択作業を始めました。20年の活動で標本化できなかったものが、果たしてすべて整理できるのかという不安を抱えたまま、年末を迎えました。

### ダウンサイズ作戦

年明けより、鳥類担当の加藤学芸員と2人で本格的な作業を始めました。体がピンとのびた検体は取扱いが不便で、総量の把握もしにくいです。加藤学芸員のアイデアで、検体をいったん解凍し、できるかぎり小さくまとめ、同規格の段ボールに入れなおすことにしました。哺乳類は重いので、重量物用の分厚い段ボールも用意しました。血や脂が染み出たポリ袋を開けると小さな検体の一つしか入っていません。油性マジックで書いた採集データが消えかかっていたりしました。データが

消えないように注意しながら新ラベルをいれて、サイズのあった新しい袋に入れ替えました。箱は番号をつけて、動物の種類・状態、使用目的、緊急性を書いたラベルを貼りました。

この作業がまるまる1週間。冷凍庫から出して山積みになった検体を前に、途方にくれましたが、引っ越しの日が迫っています。黙々と箱詰めをしました。アクセスしにくかった奥の棚からは、サル類や動物園由来の珍しい動物が出てきました。剥製や骨格だけでなく、比較研究用の検体としても活用できそうです。

激励かたがた作業の様子を見に来た職員からは、「なんか大変だけど楽しそう!!」と言われました。疲労がピークで変な高揚感もありましたが、袋をあけてさまざまな動物を見ることも楽しく、にんまりしていたかもしれません。



図1. ダウンサイズ前の冷凍検体の山。

### ブラックホールが消えた!?

検体を詰め込んだ段ボールは、合計100個となりました。哺乳類56、鳥類39、両生爬虫類5という内訳です。そのほか箱に入りきらなかった不定形のもの20体ほどありました。保冷車が到着し、加藤学芸員の指揮のもと、松本学芸員・鈴木学芸員と共にひたすら運びだし、詰め込みました。

検体が運びだされたあとの冷凍庫は、ずいぶん小さく見えました。切り崩す前には、無限のように思っていた冷凍物の奥のブラックホールは完全になくなりました。次は新体制に向けた準備です。

### 新しい冷凍庫はどうする?

修理は4日間で終了し、中の棚類を解体し、錆びついた床をすべてきれいになりました。保冷車から冷凍庫への引っ越しも1時間ほどで終了。規格化された箱の



図2. 修理後のきれいな冷凍庫。積み上げられた冷凍検体はコンパクトにまとまりました。

おかげです。

きれいな冷凍庫を前に、「もうあんな状態にはしないから・・・」と、心に誓いました。新しい冷凍庫の配置案をつくり、冷凍庫の両脇に棚を置き、分野ごとに検体を入れることにしました。不定形の検体については、専用の置き場を確保しました。一番重要なのは、平置きにする共用の部分の使い方です。緊急に大量の冷凍物を入れる場所として、できる限り空間を確保しておきたいと思います。共用部分に置く検体は、ただ積み上げるのではなく、キャスターをつけて可動性をもたせ、デッドスペースを作らないようにします。「平置きに冷凍物を置く場合は期限つきとする。冷凍物には中身と責任者と処理期限を明示して学芸員に周知する。」などのルール作りを現在検討中です。動物グループが中心になって体制を整備していきたいと思っています。

今回の整理により、標本化作業のどこが遅れているのか、各分野で明らかになったことは、大きな収穫でした。冷凍庫に限らず、日頃より自分の管理する標本資料を整理していれば、長期的視点でコレクションの管理計画を作ることができます。哺乳類では、皮処理が遅れて、冷凍庫全体の30%にもなっていました。早急に処理方法と目標処理数を検討する必要があります。

### 最後に・・・

今回の作業全般にわたり、動物グループの加藤学芸員、鈴木学芸員、松本学芸員から多くのアイデアと体力支援をもらいました。哺乳類・鳥類ボランティアの皆さんから、さらに一層の温かいご協力をいただきました。深く感謝します。